

国内宣教ニュース



宣教戦略室長 澁谷友光師(青森キリスト教会)

主の御名を賛美します。

全国のアッセンブリー教会の教職と信徒の皆様、宣教戦略室の働きのためお祈りくださり、また国内宣教献金にご協力くださり、心から感謝いたします。宣教戦略室では、捧げられた献金をガイドラインに添って、教会再生プラン、宣教協力ネットワーク推進、開拓プラン、教職研修費等に

有意義に活用させて頂き、全国においてアッセンブリー教団の宣教を推進させて頂いています。

マルコの福音書16章15節には、この地上を離れるイエスから遺言とも言える言葉として、この言葉が記されています。"それから、イエスは彼らにこう言われた。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」誰でも愛する者との別れを思うなら、時間を惜しんで最も大切なことを伝えるでしょう。であるなら、この言葉は地上に残す弟子たちと、私たちに残されたイエスからの最も大切な言葉と言えます。それが「宣教命令」だったのです。

主は私たちを真実な愛を持って愛されています。そのお方からの「宣教命令」は、命令と言うよりも、私たちを愛するが故の命と愛と祝福に生きるための、導きの言葉であったと私は信じるのです。

私たちの周囲には、無くてはならない大切な働きが多くあります。その働きが無ければ、この社会は機能を失い、多くの人は生活に困窮し、生きていけなくなってしまうことでしょう。そのような大切な働きに従事してくださっている方々に感謝しています。

しかし、すべての働きに優って重要であり、欠かせない働きが「福音宣教」です。

なぜなら「福音」だけが、罪人を悔い改めと神のみ元に導き、全ての人を新しい命に生かすものだからです。キリスト教会の歴史上でも大伝道者として知られているムーディーは、イエスキリストと出会い救われた時一つの決心をしたと言います。それは、神が生かしてくださっているこの毎日の中で、一日に最低一人にはこの福音を伝えるということでした。そして、事実毎日、毎日、福音を人に伝えていきました。多くの人はその余りにも熱心さに「ムーディーは狂っている。」とさえ言ったそうです。しかし、人に何と言われても、ムーディーの内に溢れる救いの喜びと、福音を伝えると言う使命に生きる充実感は、その行動を抑えきれなかったそうです。私たちにも、主に生かされているこの毎日があります。

主に救われた喜びが、今日も泉のように湧き上がってきます。そして、どのような人にも最高のプレゼントと言える福音を伝えることができる使命があります。ハレルヤ!

「使命」という感じは「命を使う」と書きますが、ここに最高の命の使い方が提供されていることを感謝しようではありませんか。

この使命に生きる時、本当に豊かな人生と送ることができるのです。

愛する皆さんの、伝道の働きが豊かに祝福されることを、心からお祈りしています。

神戸グレースハーモニー伝道所

ハレルヤ!主の御名を賛美致します。

神戸グレースハーモニー伝道所は、2018年3月11日から家族4人で礼拝が始まり、5月28日大きな祝福の中で開所式が持たれました。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒めまた勧めなさい。」 11テモテ4:2のみことばを抱き、この地域の魂を祝福しながら神様の恵みだけが豊かに注がれ、救われる魂が起こされるように日々励んでいます。

多くの方の祈りと捧げものに支えられ、福音の種が巻き続けられていること心から感謝いたします。教会案内やイベントのチラシをとおして近所の子どもたちが来たり、韓国語講座をとおして女性の方が導かれています。導かれている方々が信仰告白洗礼決心ができ、救われる魂が与えられるように切に祈っています。取るに足らないしもべの力では難しいことも、先が見えないようなこともあります、すべて益としてくださる主に委ね、聖霊に満たされつつ豊かに用いられるよう求め祈っています。

覚えて祈っていただければ幸いです。

2018年9月教団より開拓支援金として尊い献金をいただき、心から感謝致します。

教会の伝道の働きのため有効に使わせていただきました。 購入品:備え付け用聖書、音響機器、打楽器(カホン)、ノートパソコン、子ども伝道のためのDVDset、クリスマスイベント準備



韓国からの
ボランティア
宣教チームと
一緒に伝道集会後



2019年8月

沖縄教区による西原開拓

沖縄教区では2015年に「もうひとつの教会を生み出す」ことについて話し合われました。そして、第50回沖縄教区聖会(2022年)までに開拓をスタートすることを決め2017年には「教区ビジョン聖会」を行い、教職・全信徒が一致して向かうことができました。具体的に「9時の祈り」を継続して行うこととなりました。2018年にも「教区ビジョン祈禱会」が行われ、開拓のための祈りが熱く奉げられました。

間もなく、ひとりの信徒さんが所有していた土地建物のリフォームを行い住居として一般に賃貸することを目的に契約寸前のところ、祈りの中で教区開拓のために提供するように示され、教区開拓が開始される運びとなりました。その後、急ピッチで駐車場の整備など最低限の準備を整え2019年1月27日に開所式を行い、2月3日に1回目の礼拝をスタートとしました。

教団の宣教戦略室の開拓プラン費から25万円の物支援を受け、クーラー購入設置費用・冷蔵庫の購入などに充て必要最小限の物を揃えることができて感謝でした。

毎週の礼拝は午後3時から行われ、教区の先生方のローテーションで行われています。現在、建物を提供して下さった御夫婦を中心に琉球大学からの学生が1名で礼拝を守っています。今後、教区の祈禱伝道部を中心に地域・大学生伝道のプログラムを計画しています。

近くには沖縄キリスト教大学、琉球大学、沖縄国際大学、西原高校があります。開拓伝道が祝福されるようにお祈りを願います。

沖縄教区長 池原吉治





九州教区長(春日教会)牧師 佐藤 羊一

九州プロジェクトの報告

国内伝道部の支援の下、九州では二つのプロジェクトを行いました。

一つはキャラバン伝道と教区教職研修会での「ITを使った福音宣教」の研修です。

7月24日(水)～26日(金)に牛深キリスト教会において九州キャラバンが行われ、途中参加を含めた9名の小中高生が九州の各教会から集まり、現在常駐の牧師がいない牛深キリスト教会の伝道応援のために奉仕をしました。

九州教区としては久し振りとなるキャラバン伝道でしたが、このキャラバンが牛深キリスト教会にとって励ましとなり、子どもたちにとって神様のために伝道する喜びを体験し、奉仕を通して信仰を育む良い機会となったことは大変感謝なことでした。

「ITを使った伝道」のタイトルで8月19日から21にかけて境港キリスト教会の長谷川忠幸先生を講師に迎えて、ツイッター、フェイスブックなどの特徴と伝道への活用の可能性、インターネットを通した礼拝などの動画配信について学びました。

加えて、現代の教会の顔ともいえるホームページの必要性を覚えて、今後九州教区的全教会のホームページを作成する計画を承認しました。

私たちが内向きの教会になるのではなく、外を向いて、人々にキリストの福音を積極的に伝えていく教区、教会となるための九州プロジェクトでありたいと願っています。



国内
宣教コース

福島中央 キリスト教会

伊東衛 師*美穂 師

コーディネーター
仁井田義政 師

私たちの教会の目標は「3年後に、生き生きとした信徒が50名在籍する教会を目指していく。」に設定をしました。

そしてプロジェクト名を「Alive fifty プロジェクト」～生き生き信徒50名計画～として、み言葉を1テモテ2:4として掲げ活動しております。

その教会に与えられた目標を目指して様々な活動をしました。具体的には、チームでの訪問、主日礼拝前に祈り会を持つこと、勉強系の活動、教会内のユース育成、地域礼拝茶菓も含めた集会やイベントなどの交わり、その他伝道的な集会など、多くの活動を行ってきました。

特に、礼拝20分前に求道者のためまた礼拝が用いられるように祈り会を始めた結果、フォローしきれないほど多くの来会者が与えられたこともありました。

また目標を掲げ、活動を行っていく中で、牧師と信徒の意識が主にあって改革されていったことは感謝でした。

そして、教会では牧師夫妻だけでなく、率先して新来会者を信徒がフォローし始めるようになっていきました。実は昨年、東北聖会で美穂師が幻を見ました。

それは教会には50名の求道者が備えられており、牧師の使命は彼らを迎え入れるために信徒を整えることであると、指摘する内容でした。まさにその神様にあって見させていただいた幻が、実現に向けて進んでいることを感じます。私たちの教会にとってのビルドアップの第二期目は、神様からの具体的なビジョンが与えられ、牧師夫妻の意識も変えられる1年となったことを感謝いたします。

また、牧師も信徒も自信を持つことができるようになったことも、ビジョンの実現に向けての大きな一歩として感謝でした。この大きな前進におけるすべては、多くの方々からの祈りによって始まり、支えられていることだと確信しております。主に感謝いたします。



国内
宣教ニュース

豊橋 キリスト教会

森本亮介 師

コーディネーター
姜一成 師

私たちの教会のテーマは「次世代から礼拝参加者を」です。そしてビルドアップを開始して1年目は、先代の牧師が子ども伝道に重点を置いていたので、子ども伝道にも活発な教会を目指し、牧師、役員もこれに取り組むようにしてきました。幸い、教会の立地的には子どもが来やすい環境でありました。またその子ども伝道のためにも、牧師の音楽的なスキルアップが必要と考え、講習にも参加しました。

会のテーマを実現させるための活動として、昨夏よりそれまで英語教室からハンドベルの練習会に切り替え、その練習会の中に聖書の学びも取り入れております。現在、小2～4年の子どもたちが5名参加しております。また子どもの礼拝の参加にも工夫を入れました。

日曜日に子供たちは、教会学校が終わった後、説教開始前まで大人の礼拝に参加するようにしております。

2年目のBPでは二つの収穫が与えられました。一つ目は、子どもたちが自主的に教会学校に参加するようになったことです。コーディネーターの姜先生のアドバイスにより、ハンドベルでは、イースター、夏休み、クリスマスの伝道会で、練習してきた曲を披露させ、教会学校に参加を促すようにしたのです。それもあってか、その発表の日に向けて意識的に練習に参加し、教会学校にも積極的に参加するようになりました。そして伝道会には父兄や一般の来会者も増えました。

二つ目は、信徒たちの子どもたちへの伝道の意識が変えられました。信徒たちは礼拝中、説教が始まるまで子どもたちが出す音などを我慢し、自主的に教会学校スタッフ以外の信徒たちが早めに来て、スタッフの準備を手伝うようになったのです。次世代を育成していくという意識が、教会全体に高まってきております。今後の祈祷課題としては、子どもたちの親との信頼関係の構築、また子どもたちの信仰成長です。この2つのために祈りつつ、さらに子ども伝道を通した福音宣教の拡大に努めていきたいと思っております。



国内
宣教ニュース

大和 リバイバル チャーチ

田原聖二 師*麻衣子 師

コーディネーター
三宅則之 師*千香子 師

私たちの教会は、コーディネーターの三宅先生より教会成長には順序(牧師力→礼拝力→信徒力)があると教えられました。

まず「牧師力の向上」を目標にして、主に説教と個人伝道の指導を2年間していただきました。

その中で、説教後の招きに応え、個人伝道を通して信仰告白へと導かれる人々が起こされています。去年の10月には、洗礼者が一名与えられました。現在も三宅先生の個人伝道用テキスト「なるほどすっきりキリスト教入門」を用いて2名の方が学んでいます。

また、活動に取り組む中で、全国の諸教会に祈られていることを実感しています。

バースデーランチ礼拝、ハワイアンキッズチャーチ、いい肉食べようバーベキューなどのイベントには、毎回20名ほどの未信者が参加し福音に触れています。また、計画していないところからも、火曜礼拝、親子の会サーモンといくら、老人ホームクリスマス会などの新しい働きがスタートしました。毎週礼拝に集う者も起こされ、受霊する者、病が癒される者など、あらゆる主の奇跡が表されています。

また、平日に小・中学生が10名ほど集っており、救われた子どもたちが変えられ、友人とその親への良い証になっています。ある4年生のクラスでは、子ども同士がお互いに誘い合い3分の1以上の子どもたちが教会に足を運びました。そのクラスでは給食の前には食事のお祈りをしているそうです(笑)集っている子どもたちの親は全員未信者のため様々な戦いはありますが、家族単位で救われていくことを祈りつつ関わっています。

三宅規之先生、三宅千香子先生、サポーターの渋谷友光先生をはじめ、全国の諸教会のお祈りに心より感謝します。最後の一年は、礼拝力の成長を目指し、また来たいと思えるような礼拝を捧げるために取り組んでいきたいです。

祈りの課題ですが、現在導かれている方々の明確な救いのため、洗礼者が続々と起こされ教会員が増し加えられるようにお祈りいただけると感謝です。

アガペー三田 キリスト教会

安東聖樹 師

コーディネーター
三箇義生 師



私たちの教会では三つの課題を挙げました。

現状は、教会員が中々成長せず、客員が什一献金を忠実にするような状況であり、コーディネーターの三箇先生と相談しながら、弱いところを強いところが補っていく教会形成を進めております。

そして三箇先生よりスカイプで、定期的なコーチングを受けて励んでおります。

教会の具体的な取り組みとしては、BPセミナー(平松慶次師)や第二回個人伝道の学び(十字架物語法・渡邊師)や、賜物セミナー(三箇義生師)で学びをしました。

また、信徒と牧師が建て上げる教会セミナー(小岩栄光教会・松田正長老)を二回行い、ゴスペルコンサート(サルキー)や、「神のみ声に生きる」ペンテコステ特別集会(アライズ5ジャパン所属、ジーザスコネクションハウスチャーチ相馬長老)をしました。

それらの取り組みの実もありました。

それは、統一協会から救われた姉妹の受洗と、その方も含めたバイブルクラスに人が集い、熱心に教会で奉仕するようになりました。

- ① ユースの信仰形成
- ② 教会員が献身的な奉仕者となること
- ③ 客員が教会員になることです。

また、以前は祈祷会に4～5人の参加でしたが、今は10人が集まっております。また信徒が賜物を用いて活動するようになり、若い兄弟姉妹が自主的に聖書の学び、賛美の練習をしております。

また折り紙や書道を通じて人間関係を築いたり、着物を利用して着付け大会もしました。そして教会でビジョンを語る会を行い、信徒の中から近所の人を招くビジョンが与えられ、多目的ホールをリフォームしました。祈りの課題としては、夫婦でバス会社に勤務ですが、牧会と伝道の働きにウェイトを置くことです。

また無事に教会の借財が5年で完済できるように。また、三田市で300人ホールを利用した「市民クリスマス会」の準備と準備を通した教会の一致です。そして教会のユースが、祈りの勇士、賛美奉仕者となれるように。

また、「いのちと性の大切さを教えるセミナー」に参加し、資格を取るの、それを生かした働きをしていきたいです。

「教会再生プラン」
第二期ビルドアップ・プロジェクトの報告⑥

このプロジェクトは新居浜を拠点教会とした4つの教会(松山、今治、丸亀、新居浜)のビルドアップを目的としたものです。各教会が信徒の活躍する教会、祈りとみことばに根付いた教会、伝道する教会、メッセージの出来る弟子づくりを建て上げることを目的としています。

このため「信徒と牧師が立て上げる私たちの教会」を目指して、教会マネージメント(松田正兄)が2回合同で行われました。伝道研修会(藤井圭子師)、瀬戸内ブッシング聖会(ドミクニ・ヨー師、元コーディネーター土屋潔師、現コーディネーター天野弘昌師)と恵まれた聖会も共に持つことができました。

子供伝道講習会(村上則之師)、ディボーションセミナー 役員・リーダー研修会、牧師セミナーも行われ共に研鑽の時を持つことができています。

去年9月敬老の日では元サポーターの柿谷悟師に新居浜と丸亀の視察を兼ね特別礼拝を行っていただきました。

今年8月の賛美交流会はそれぞれの教会が練習した賛美をリードし、その後チュア・トニー師めぐみ師によりすばらしい賛美の饗宴へと導かれ大変恵まれた時となりました。

去年より新居浜から松山と今治に伝道交流キャラバン隊を派遣しています。

信徒が司会証し、メッセージを担当します。今年も9月、今治に伝道交流キャラバン隊4名を送りました。来年の4月には今治から新居浜にキャラバン隊として来たいと計画、準備、訓練を始めています。

私たちも喜んで迎えたいと祈り応援しています。松山にもまた今年中に送りたいと計画をしています。今後の計画として「辛さを抱えた人たちとの関わり」セミナー(堀川寛師)、瀬戸内ブッシング聖会などが計画されています。

どうぞ新居浜拠点教会、瀬戸内ビルドアップを通して4つの教会が共に成長できるように続けてお祈りください。

そしてまた、四国400万の救霊のため、四国教区及び地方で戦っている教会のためにぜひお祈りください。

新居浜拠点教会ビルドアップ

コーディネーター天野弘昌 師
サポーター:竹中通雄 師

2018年8月8日～11日

沖縄県の渡嘉敷島において、全国ユースキャンプを開催いたしました。

当初の募集人数150名を遥かに超える263名が結集しました。テーマは「Surf the Wave ～聖霊の波に乗って～」。講師の天野弘昌師(草加神召キリスト教会)が神のメッセージを取り次いで下さいました。参加者は、メッセージに応答して、祈り満たされ、燃やされました。救い・受洗決心者多数、受霊者(13名)、献身表明者(14名)、ガンのいやしや解放の証しも多数報告されています。

台風の脅かしもありましたが、万事を益としてくださる主が、台風から暴風域を奪うという不思議な奇跡を通して、全日程を守り導いてくださいました。主の栄光が現わされた素晴らしいキャンプであったことを覚え、主の御名を崇めます。ユースたちは、“次は友を連れて参加”を合言葉に再会を約束し、聖霊の波に乗って、渡嘉敷から全国へ遣わされていきました。



振り返りますと、全国ユースキャンプ成功の陰には、沖縄教区の全面協力をはじめ、全国の諸教会のご理解とご協力がありました。特に、2017年6月、同会場で開催した第1回ユースリーダーズカンファレンスには、各教区代表の青少年担当の先生方をはじめ、40名の教職がお集まりくださいました。先生方には、実際に会場を見ていただき、ビジョンを共有していただくと共に、キャンプの為に祈っていただきました。青少年伝道部では、この時を境に、全国ユースキャンプへの理解と協力体制が、全国区に深まったことを記憶しております。

また、全国ユースキャンプの為に、国内宣教献

金から、国内伝道支援金をいただきましたことは、大きな励みとなりました。尊いサポートのおかげで、より自由で大胆な企画・運営、教区への支援が出来ました。さらには、台風対策を講じる上で、大きな後ろ盾となりました。感謝に堪えません。心よりお礼申し上げます。

あれから1年、この波に乗り続けるべく、青少年伝道部は、教団創立75周年に向けて、TSU-75(つなごう)というキャッチコピーを掲げています。

- ①つなごうキリストに。3年で1人が1人を導けるようになる。ユースの伝道体質化。
- ②つなごう未来に。Next Generationを勝ち取る為に、ユースリーダーの発掘と育成。
- ③つなごうみんな。国内伝道部、海外伝道部、ろう者伝道部、教会教育部、CBC、教区、全国諸教会とのBe One。

以上の3つを掲げ、青少年伝道部は、2021年の第2回全国ユースキャンプへこの波をつなぎます。早速、2019年8月7～9日には、第2回ユースリーダーズカンファレンスを開催し、ユースリーダーの発掘と育成に取り組みました。当日は、全国ユースキャンプメンバーを中心に72名が集い、学び、分かち合い、恵みを受け取ることが出来ました。今後も、学びだけでなく、より実践面での育成を促せるような企画を発信してまいります。今後とも青少年伝道部の働きにご理解くださり、お祈りとご支援をいただければ幸いです。

成熟したAG教職者を目指す

—— 新規教団加入者研修について ——

厚生教職局長

天野 弘昌

実践的な研修

2016年の教団総会で「新規教団加入者研修(2年まで)」を実施することが可決され(教団年間計画表)厚生教職局長を長として関係各部(事務局、総務部、財務部、国内伝道部、厚生部、教職ケア室、CBC、企画室)を横断したプロジェクトチームが任命されました。

AG教団では従来から、国内宣教献金の5つの用途の1つとして「宣教面の強化を図るための『教職者研修制度』への支援」があり、教団加入2年～4年目までの教職を対象としてリフレッシュ・カンファレンス(国内伝道部主催の伝道研修会)への参加援助と励ましの時を持ってきました。ただ他教団では「神学校卒業後に伝道牧会がうまくやっていけない方々、5年、10年して挫折する方々がいる」という現実の中で、既に具体的な新任研修プログラムを実施し、教師全体への研修制度に取り組んでいます。そこでAG教団でも多様な現実を踏まえつつ、「成熟したAG教職者を目指す」というテーマのもと、様々な事例を挙げながら実践的な研修の時を持っています。実務研修として「教団・教区に属する教職者」、「教会に仕える教職者」、「ペンテコステの教職者」として歩いていくために、「伝道と牧会」、「組織・帰属」、「心身・霊性(霊的形成)」、「女性教職について」など、関係各部の長から経験を踏まえて分かりやすく、心が燃える講義がなされています。



「加入同期」

開会礼拝や神学生と共に捧げるチャペルで共に主を仰ぎ、シェアリングタイムでは、リラックスとした雰囲気の中で自己紹介、また伝道・牧会の現場に出てからの悩みや状況を分かち合い、祈り合うひと時を持っています。教職の増加と近年その加入形態も多様化し(CBC本科卒業、通信科卒業、海外のAG神学校卒業、補教師検定など)、結束力の減少と教職の孤立化という課題が生じつつありました。そこで、主イエスが弟子たちとなされたように、寝食を共にして分かち合い、これからもキリストの心をもって祈り合っていく「加入同期」という新たな絆を結ぶことも、研修の大きな目的の1つです。互いに連絡先を交換し合い、男性教職たちは連れ立って近くの銭湯に行くなどする風景も垣間見られました。



特別講師



2017年10月の研修では、特別講師として豊川修司先生(日本キリスト改革派教会教師)をお招きしました。「牧師の持つべき資質・モラル&常識 ～健全な教会を建てるためのバランス感覚」と題して、金銭感覚、異性感覚、公私混同、言動・態度、時間感覚、コミュニケーション、総合力(常識・コモンセンスとバランス感覚)など、資料を用いて多くの事例をあげながら実際的なことに関する講義がなされました。

2018年10月は、特別講師として小平牧生先生(基督兄弟団理事長)をお招きし、「新任伝道者に伝えたいこと」という主題で、引き継ぎや行き詰まり、また危機管理などについて有意義な講義となりました。外部講師の講義は収録し、一般教職も視聴が可能となっています(パスワードを設けています)。本年10月の特別講師は、臨床心理士の小渕朝子先生をお迎えします。

加入前研修と加入後研修



2019年3月からは、従来のオリエンテーションを更に充実させた1泊2日の「加入前研修」を実施しています。実務研修の他、「一步先を歩く先輩」より様々な失敗談を語っていただく機会も設けています。3月の「加入前研修」、10月の「加入後研修」の2つを合わせた新規教団加入者研修が、さらに充実したものとなっています。また教職ではない伴侶も、一緒に参加することをお勧めしています。

成熟したAG教職者を目指して

上記のことを覚えて、研修を受けられた先生方がますます成熟していくことをお祈りいただければ感謝です。

「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることの無い働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい」

(Ⅱテモテ2:15)